

平成 27 年 6 月 9 日



徳島大学フロンティア研究センター完成記念式典の開催について

徳島大学フロンティア研究センターの完成を記念して、下記の通り記念式典を
挙ります。

(報道概要)

■ 記念式典

1. 日 時 平成 27 年 6 月 12 日 (金) 13:30～
2. 場 所 徳島大学フロンティア研究センター 1F セミナールーム
(徳島市南常三島町 2 丁目 1 番地 工学部キャンパス内)
3. 次 第
 - (1) 開 式 の 辞
 - (2) 式 辞
 - (3) 学 長 挨拶
 - (4) 来 賓 祝 辞
 - (5) 施設概要説明
 - (6) 感謝状贈呈
 - (7) 閉 式 の 辞

※記念式典終了後、テープカットセレモニー及び施設見学を行います。

お問い合わせ先

部 局 名 大学院ソシオテクノサイエンス研究部
責 任 者 研究部長 河村保彦
担 当 者 工学部総務係長 滝川泰弘
電 話 番 号 088-656-7304
E - m a i l kgsoumuk@tokushima-u.ac.jp

徳島大学フロンティア研究センター完成記念式典（予定）

■ 記念式典

日 時： 平成27年6月12日（金） 13:30～

場 所： 徳島大学フロンティア研究センター1階セミナールーム

式次第：

- | | | | | |
|---|--------|--------------------|----|-----|
| 1 | 開式の辞 | フロンティア研究センター副センター長 | 山中 | 英生 |
| 2 | 式の辞 | 大学院ソシオテクノサイエンス研究部長 | 河村 | 保彦 |
| 3 | 学長挨拶 | 徳島大学長 | 香川 | 征 |
| 4 | 来賓祝辞 | | | |
| | | 日亜化学工業株式会社 | | |
| | | 取締役第二部門開発本部長 | 向井 | 孝志様 |
| | | 徳島大学経営協議会委員 | | |
| | | 株式会社山本鉄工所代表取締役会長 | 山本 | 紘一様 |
| | | 徳島大学工学部同窓会 | | |
| | | 徳島大学工業会理事長 | 林 | 正様 |
| 5 | 施設概要説明 | フロンティア研究センター長 | 杉山 | 茂 |
| 6 | 感謝状贈呈 | | | |
| | | 戸田建設株式会社四国支店 | | |
| | | 執行役員 | 平田 | 俊男様 |
| | | 浅海電気株式会社高松営業所 | | |
| | | 営業所長 | 溝渕 | 壽明様 |
| | | 港産業株式会社 | | |
| | | 取締役港テクノシステムカンパニー社長 | 濱 | 昇司様 |
| 7 | 閉式の辞 | フロンティア研究センター副センター長 | 山中 | 英生 |

■ テープカットセレモニー（14:10～、フロンティア研究センター正面玄関前）

- | | | | |
|-------------|-----------------|----|------|
| 徳島大学経営協議会委員 | 一般社団法人徳島新聞社理事社長 | 植田 | 和俊様 |
| | （代理 同 専務理事 | 米田 | 豊彦様） |
| 徳島大学経営協議会委員 | 株式会社クラッシー代表取締役 | 植田 | 貴世子様 |
| 徳島大学経営協議会委員 | 徳島県教育長 | 佐野 | 義行様 |
- 香川学長、野地理事、河村研究部長、杉山センター長
（司会：大学院ソシオテクノサイエンス研究部 講師 浅田 元子）

■ 施設見学（14:30～）

- 【1班】ご案内役：フロンティア研究センター長 杉山 茂
ご来賓、学長、理事
- 【2班】ご案内役：フロンティア研究センター副センター長 山中 英生
部局長等
- 【3班】ご案内役：副研究部長 辻 明彦
施工業者等招待者、各部課長等、工学部招待者

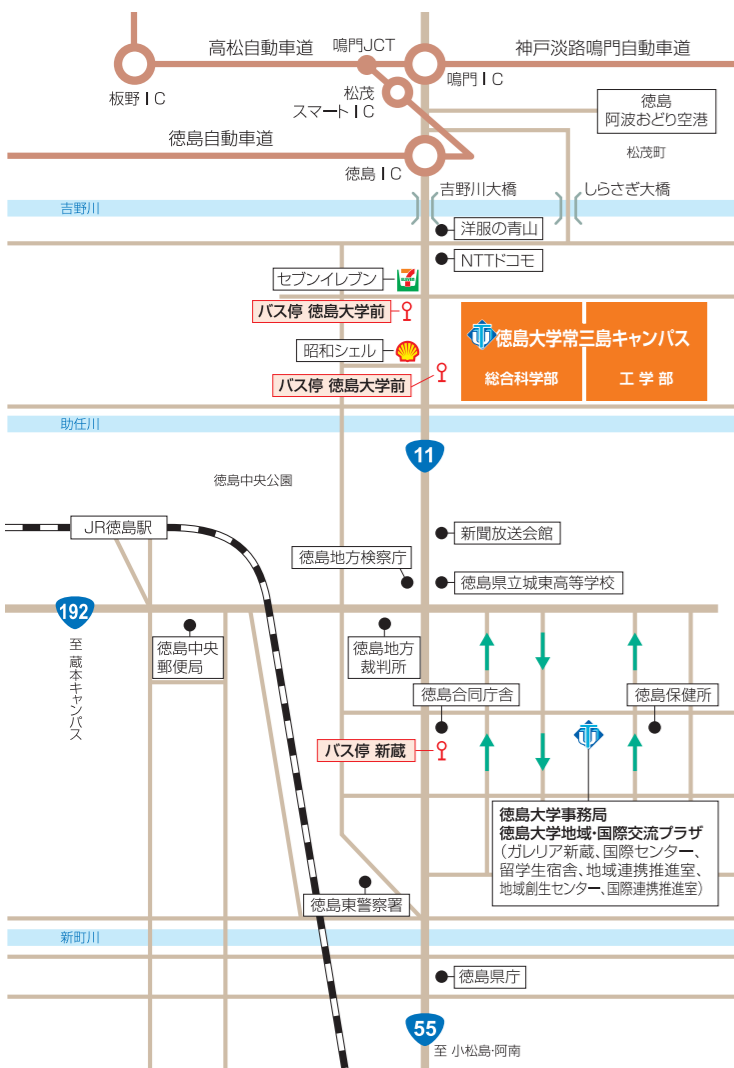
概要

名称	フロンティア研究センター
所在地	徳島県徳島市南常三島町2丁目1番地
延床面積	3,012 m ²
構造・階数	鉄筋コンクリート造 地上6階
設計	株式会社宮設計（建築） 株式会社新日本設備計画（設備）
工事監理	徳島大学施設マネジメント部
施工	建築 戸田建設株式会社四国支店 電気 浅海電気株式会社高松営業所 機械 港産業株式会社

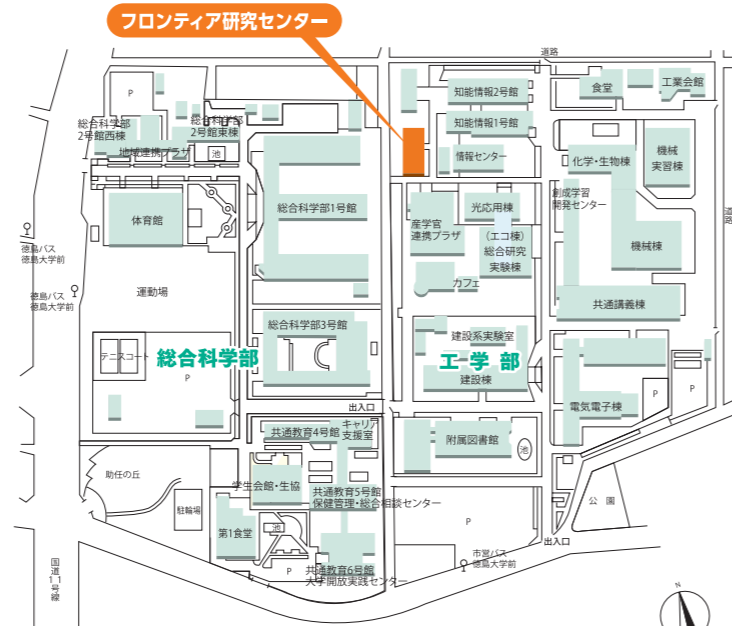


徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部
フロンティア研究センター
 Center for Frontier Research of Engineering
 Institute of Technology and Science, Tokushima University

アクセス



常三島
キャンパス



所在地
 徳島市南常三島町2丁目1番地
 TEL.088-656-7304 / 088-656-(ダイヤルイン)
 2-1 Minamijosanjima, Tokushima 770-8506 JAPAN
 Phone +81-88-656-7304
 URL <http://www.tokushima-u.ac.jp/e/>



ご挨拶

河村 保彦
「大学院ソシオテクノサイエンス研究部長」

このほど、念願の徳島大学フロンティア研究センターが竣工し、開所式を迎えることができました。ご支援ご尽力いただきました関係の皆様にご心からお礼申し上げます。

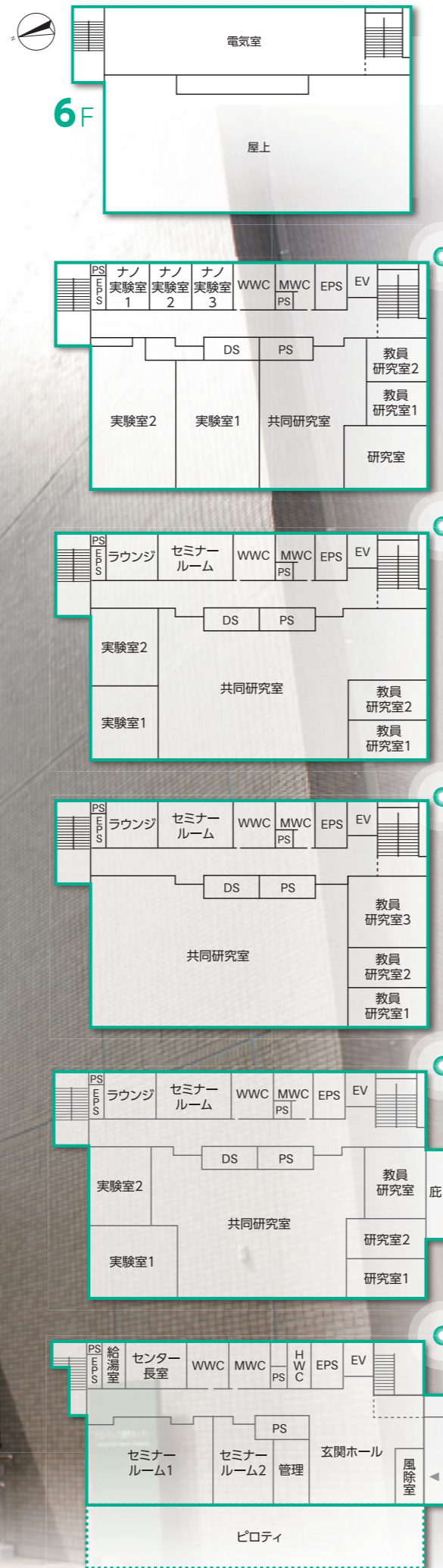
大学の重要な責務の一つは、教育と連動した大学でしかできない研究です。本学の強みを活かした研究を戦略的に選定し、それを組織として支援し育てていく必要があります。この観点に立ち、工学部は平成17年度に国際的に評価の高い研究と研究グループを選定し、本センターを設置しました。翌18年度に、センターは大学院ソシオテクノサイエンス研究部に移行しました。第1期は、博士後期課程学生の指導実績や外部資金獲得等で目覚ましい成果を上げ、平成22年度に終了しました。平成23年度から第2期となり、「光ナノテクノロジー研究部門」、「医工連携研究部門」、「資源循環研究部門」の3部門7研究分野を配しています。そのうち、光ナノテクノロジー研究部門には、第1期から引き続き日亜化学工業株式会社様から全面的なご支援をいただき、寄附講座（日亜講座）のナノマテリアルテクノロジー分野を配置させていただいています。

これまで本拠地を持たない研究組織でしたが、本センターの竣工により確かな拠り所が完成しました。今後本センターが次代に結びつく更なる成果を上げ地域と社会に貢献しますには、センター教職員の努力はもとより、本学全部局、国内外の大学・研究機関のご支援・ご協力は欠かせません。今後とも一層のご高配を宜しくお願い申し上げます。

施設の概要

杉山 茂
「フロンティア研究センター長」

フロンティア研究センターは平成17年度に設置されましたが、センター教員が工学部内に分散していたため、バーチャルな組織でしかありませんでした。そのため、拠点としての本センターの設置を数年に渡り申請し、平成24年度補正予算で設置が認められました。申請に当たりましては、「光ナノテクノロジー研究部門」における光資源の高効率利用とそれを実現するためのプロセス開発、「医工連携研究部門」における人的資源の恒久的な繁栄につながる工学的アプローチ、「資源循環研究部門」における枯渇資源対策および未利用資源に関する効率的資源化等、“資源”に対して工学の全分野が融合して対応するセンターとして、関係各位のご理解を頂きました。センターの各階の設計は、各部門長が中心となって、それぞれの分野の特性を活かせるような設計とし、主として部門長関連グループが研究室を構えています。さらに、各部門で分野融合を図るために、センター教員グループの研究を進める研究用ベンチ、国内外の研究チームが共同研究を進める研究用ベンチや居室を確保する等、グローバル的にイノベーションを創出する本センターの目的を達成できるようになっています。センターの竣工を今後の本センターのターニングポイントと位置付けています。今後とも、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

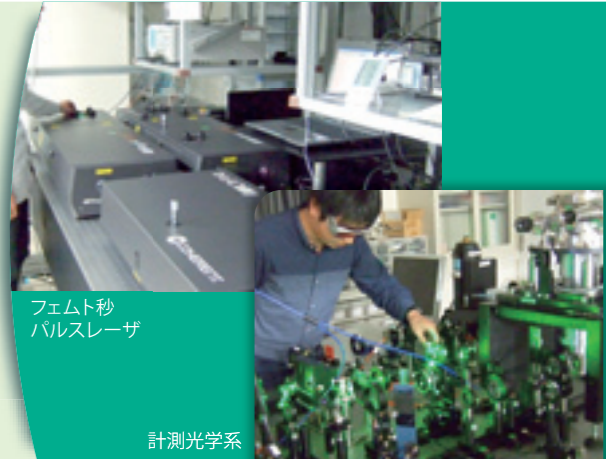


5F

光ナノテクノロジー研究部門

日亜
寄附講座

日亜化学工業株式会社からの寄附により設置された講座では、半導体ナノ構造を利用した新規な光デバイスの創製を目標とした研究を行っています。特に、二波長面発光レーザーを利用したテラヘルツ光発生素子などについて、半導体結晶成長からナノ構造加工、材料・素子の特性計測評価に至る一貫した技術開発を進めています。



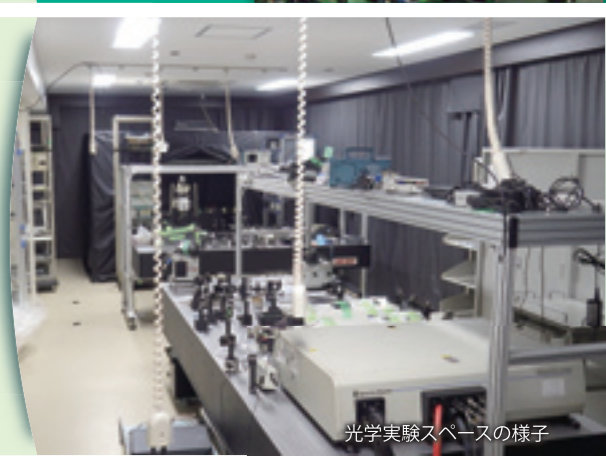
フェムト秒パルスレーザー

計測光学系

4F

光ナノテクノロジー研究部門

本フロアは、光ナノテクノロジー研究部門のうち、ナノ工学・材料工学分野とナノカーボン物性工学分野が利用しています。ナノメートルスケールの構造を有する物体特有の光学現象や、サブピコ秒の時間スケールで生ずる現象を分光学的手法により解明することで、新しい光機能材料や光デバイスを開発するための研究を行っています。



光学実験スペースの様子

3F

資源循環研究部門

枯渇資源、稀少資源等に対する新資源および代替資源開発、環境に配慮した未利用資源からの有用資源回収等に関する研究を行います。本フロアでは、固体触媒を用いた原油代替物質の開発、未利用資源からの化成品の生産やリサイクル、またこれらに適用するマイクロリアクタや水蒸気爆砕処理の開発などを行っています。



代替石油資源開発用反応装置

2F

医工連携研究部門

先端ロボット技術による高齢者や認知症患者へのコミュニケーション支援技術、ユーザの感性や脳波等の生体情報を利用したマルチメディア・コンテンツの検索技術、WWW上の医療・健康情報マッチングのための統合的メディア解析技術、医療診断知識の高速学習技術など、医療福祉情報工学に関する先端的研究開発を行っています。



脳波測定の様子

人型ロボット

1F

管理・共通利用フロア

本フロアには、センター長室、管理室などの管理部門と、目的に応じて大セミナー室としても利用できるセミナールーム2室を設置しています。エントランスで簡単な打ち合わせができるようなスペースも設けています。通常1階に設置されることが多い電気室は屋上部に設置し、津波の被害を最小限にするようにしています。



セミナールーム1・2